

幻の名古屋五輪 東京への教訓

写真は毎日新聞 11 日夕刊。記事左上の写真には、名古屋五輪のメインスタジアムに予定されていた平和公園で「オリンピックって何だろう？平和公園フェスティバル」を催し、約 5000 人が五輪反対の声を上げたと説明。いまから 40 年前、1981 年のことだ。平和公園近くに住んでいたこともあり、フェスティバルに参加した。

水田洋先生と岡崎勝さんの顔写真も掲載されている。2 人の発言などを抜粋して紹介したい。

東京オリンピックの開幕まで 50 日を切った。

新型コロナ感染拡大の収束が見通せない中、開催に向けて突き進む国際オリンピック委員会 (IOC) や政府に対し、冷ややかな視線を送る人たちがいる。東京五輪について「このまま開催すれば民意を無視した形となり、民主主義社会の中でのイベントではない」と疑問を唱える。訴えるのは 1988 年の「名古屋五輪」の招致反対運動に関わった水田洋・名古屋大名誉教授 (101) と小学校教員で「自由すば一つ研究所」代表の岡崎勝さん (68) だ。77 年 8 月、愛知県の仲谷知事が 88 年夏季五輪の名古屋招致を提唱した。提唱翌年から五輪反対の市民運動も盛り上がる。巨額な大会経費に伴う財政負担や施設建設による環境破壊など反対理由はさまざま、文化、環境、教育、体育など 10 以上の団体が立ち上がった。水田名誉教授は 81 年、「名古屋オリンピックに反対する市民の会」を設立した。名大研究室の学生らと共に「名古屋市当局がまず配慮することは市民生活の充実であり、五輪が入り込む余地などない」と訴えた。

IOC 総会の投票ではソウル市 52 票、名古屋市 27 票で、名古屋は惨敗。岡崎さんは「愛知県内の市民運動団体が結びつき、反対の声を盛り上げられた結果」と振り返り、民意が反映されたとの見方を示す。岡崎さんは「今の政府や東京都はまさに市民合意を無視している。自ら市民アンケートを取るなどして民意に耳を傾けるべきだ」と提案する。コロナ下での五輪開催については反対の声も根強いが、水田名誉教授は「市民それぞれが声を上げないといけない。議論が大きくなれば都や国、IOC も無視できないだろう」と話す。

水田先生、岡崎さん、そして影山健先生の編集により、写真の『反オリンピック宣言』が 1981 年 10 月、名古屋の風媒社から出版された。じつは私も「オリンピックをめぐる名古屋市の財政・都市問題」というテーマで執筆している。1979 年に名古屋市立女子短大に就職して、名古屋五輪誘致「騒動」に巻き込まれた。「幻の名古屋五輪」からも、今回の東京五輪「騒動」に関心がある。東京五輪開催中止を求めたい。



(2021 年 6 月 13 日)